鹿児島市立桜丘中学校 令和4年12月23日

第9号

質のいい成功体験

校長 上久保大介

慌ただしく始まった2学期も終了し、コロナに振り回された1年も終わろうとしています。**保護者の皆さまには今年もたいへんお世話になりました。心より感謝申し上げます**。

さて、朝、登校指導をしていると、通用門の前を桜ヶ丘団地内にある**幼稚園のバ**スが通ります。<u>初めは運転手さんの</u>姿が見え、やがて左側の座席に、右側の座席の方を向いて座っている先生の姿が見えてきます。その視線の先には数名の**幼稚園児の姿**があります。みんな紺色のおしゃれな帽子をかぶり、一様に外の景色を見ています。**私から見えるのは顔だけ**です。ちょこんと座って、とても**かわいい姿**です。校門の前は小学生も通ります。**小学生には「おはようございます。」**と声をかけるようにしています。

当たり前のことですが、人はみんな赤ちゃんからスタートし、いろいろなことを 覚え、学び、**経験して大人になっていきます**。乳児、幼児、小学生、中学生を見な がらどのようなことを経験し大人になっていくのかを考えると、「質**のいい経験を** たくさんさせたいな。」と考えてしまいます。

経験の有無はその後の考え方や行動を左右します。今年もコロナで変更せざるを得なかった多くの行事ですが、これらを経験できなかったと捉えるのか、不自由な条件を乗り越えて、充実した活動に変えることができたと捉えるのかで、その後の考え方は変わってきます。自分の経験を否定的に捉えるよりは、**肯定的に捉えた方が**考え方が広がるような気がしませんか。

かつて、「ゆとり教育」と呼ばれた時期がありました。この時期の小・中学生が 社会人になったとき、「ゆとり世代」と呼ばれ、否定的に受け取られたことがあり ました。子供たちに責任はないのに、大人たちが勝手に決めつけた名称です。今の 子供たちが将来、「コロナ世代」と呼ばれないようにするためにも、私たち大人が 「コロナ禍を工夫して乗り越えたんだぞ。」と肯定的に捉えさせ、自信を持たせる ことが、今は大事なのではないかと思います。

経験は大切です。そして、人間の一生の中で、もっとも激動の時代が中学生の時期です。その貴重な時期に成功も失敗も含め、子供たちには**できるだけ多くの経験、できれば成功体験**をたくさんさせ、よりよい判断ができるように育てていきたいものです。

来年は卯年です。来年が皆さまにとりまして、さらなる**飛躍の年**になりますこと をお祈り申し上げます。